

死を意識するようになった子供が怖がるのは、自分の死ではなく、お母さんの死です。「お母さんなしでは生きていけない」と思っている子供は多く（ほぼ全員）、もしもお母さんが死んだらどうしよう、というわけです。普段から心配性

Q 6歳の娘が、最近「死ぬこと」をとても怖がるようになりまし。何の影響か分かりませんが、「ママ死なないで」「いつか死んじゃうの？」と毎晩のように質問してきます。「大丈夫。生まれ変わってもママの娘になるのよ」と言っても、すぐに泣いてしまいます。どうしたらよいでしょうか？

A 「死」は2、3歳の子供には分かりませんが、5歳くらいになると分かってきます。最近の絵本の中には、お母さんが死んだ後に幽霊になって子供を見守ったり、死んだおじいちゃんや交流したりと、「死」がテーマになっているものが多いです。大人は感動しますが、子供は不安になることがあるので、読むときは何かしらの配慮が必要です。

死ぬことを怖がる



の子供ほど、その傾向は強いようです。

さて解決策ですが、「ママも死ぬの？」と聞かれて、「生まれ変わってもママの娘に」「なんて言うのは、「そう、死ぬのよ」と言ったのと同じです。その後、「大丈夫」と言われても、お子さんは安心できないでしょう。きっぱり「大丈夫、死なないよ」と言うてください。お子さんはその言葉がほしいのですから。

「子供に嘘を言うてはいけない」と思うのなら、「死なないよ」と言ったあとに、「当分の間は」という言葉を添えたつもりでいてください。すると、嘘ではなくります。

この機会に死を教えようと、「人はみんな死ぬの」「それは仕方ないこと」などと言つと、子供は余計不安になります。それらは、受け止めることができる小学生くらいから教えてやればよいことだと思います。

でも、お母さんの死を恐れるのは、お母さんを大好きな証拠です。よかったですね。

(こどもコンサルタント)